

# 4月中国経済指標は市場予想を下回る

～ゼロコロナ政策後の回復ペースは緩慢～

## ◆前年の反動で小売・生産の伸び率は拡大

5月16日に公表された中国の4月分経済統計で、小売売上高は前年同月比+18.4%と、前月(同+10.6%)を大きく上回る高い伸びとなりました。比較対象となる昨年4月は、新型コロナ感染拡大により上海等で厳しい行動制限が課されていたためです。かねてから販売回復の遅れが指摘されている自動車は、同+38.0%の大幅増加でした。もっとも、小売売上高全体でみると、市場予想(+21.9%)には届きませんでした。

工業生産は同+5.6%と、前月(同+3.9%)から加速しましたが、市場予想(+10.9%)を大きく下回りました。繊維(同▲3.0%)や医薬品(同▲7.2%)などで減産が続いたことが影響しました。

工場建設などを示す固定資産投資(1-4月分)は前年同期比+4.7%と市場予想(同+5.7%)を下回りました。また、マンション建設などが含まれる不動産開発投資(1-4月分)は同▲6.2%と市場予想(▲5.7%)よりも大幅なマイナスとなりました。

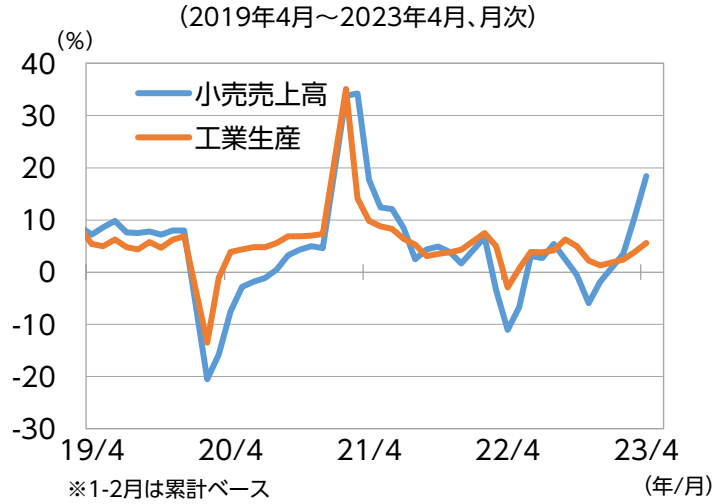
## ◆今後の見通し

4月の中国経済指標は、昨日までに既に公表された分でも、力強さを欠くデータが目立っています。例えば政府発表分の製造業PMI(購買担当者指数)が49.2と好調・不調の境目である50を4カ月ぶりに下回ったほか、貿易統計では、輸入額(米ドル建て)が前年同月比▲7.9%に落ち込みました。また、CPI(消費者物価指数)は同+0.1%と3カ月連続で伸びが鈍化しました。

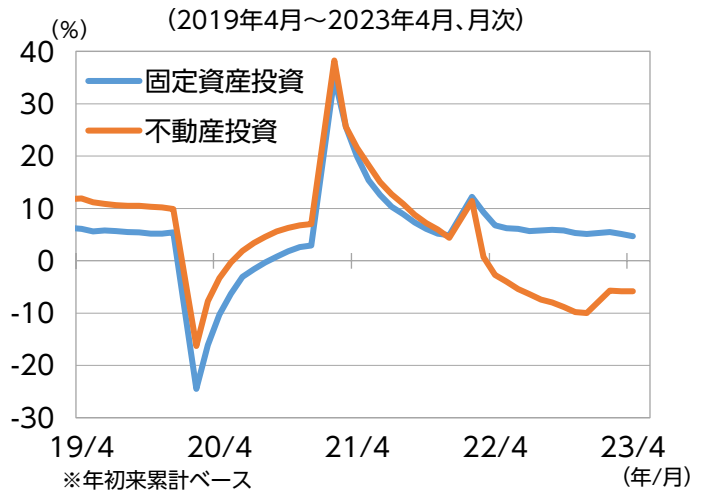
4月の一連の経済指標は、「ゼロコロナ政策」後の中国経済の回復ペースが緩慢で、力強さを欠いていることを示したと言えそうです。

中国政府の2023年の実質経済成長率の目標は「5%前後」です。今後は、中国当局が目標の実現に向けて、金融緩和策や財政出動などの景気刺激策を繰り出してくるのが注目点になりそうです。

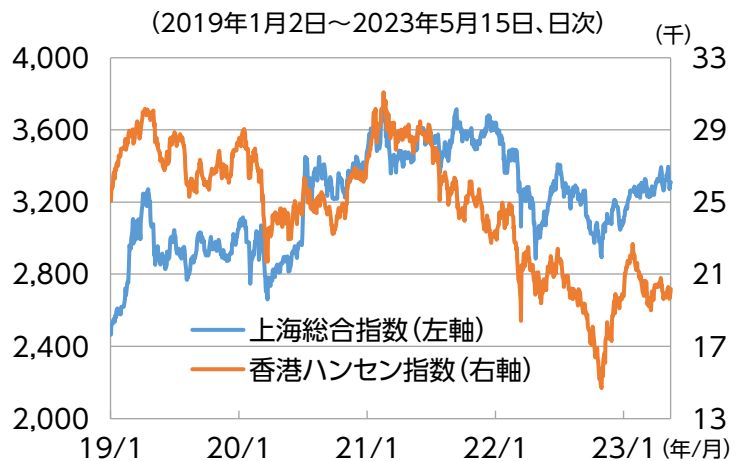
【図1】小売売上高と工業生産(前年同月比)



【図2】固定資産投資と不動産投資(前年同期比)



【図3】上海総合指数と香港ハンセン指数



(出所) Bloombergのデータを基に三井住友トラスト・アセットマネジメント作成

#### 【ご留意事項】

- 当資料は三井住友トラスト・アセットマネジメントが投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- ご購入のお申込みの際は最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクを伴います。)に投資しますので基準価額は変動します。したがって、投資元本や利回りが保証されるものではありません。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆様へ帰属します。
- 投資信託は預貯金や保険契約とは異なり預金保険機構および保険契約者保護機構等の保護の対象ではありません。また、証券会社以外でご購入いただいた場合は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると判断した各種情報等に基づき作成していますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また、今後予告なく変更される場合があります。
- 当資料中の図表、数値、その他データについては、過去のデータに基づき作成したものであり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他の一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。